

松本市・山形村・朝日村中学校組合
第 2 回 定 例 教 育 委 員 会

令和元年 10 月 16 日（水）
午後 2 時 00 分開会
松本市教育委員室

議事日程

第 1 開 会

第 2 会議録署名委員の指名

第 3 議事

報告第 1 号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会 11 月定例会の
日程について

報告第 2 号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会 11 月定例会の
提出予定議案について

報告第 3 号 平成 31 年度全国学力・学習状況調査の実施結果について

報告第 4 号 N R T（教研式全国標準学力検査）の実施結果について

報告第 5 号 不登校の現状と対応について

報告第 6 号 平成 30 年度鉢盛中学校給食費会計について

報告第 7 号 各種大会結果について

第 5 閉 会

出席者（4 名）

教 育 長 赤 羽 郁 夫 君	教 育 長 百 瀬 司 郎 君
	職 務 代 理 者
教 育 委 員 根 橋 範 男 君	教 育 委 員 上 條 利 春 君
教 育 委 員 清 澤 あゆみ 君	

事務局職員出席者

事 務 局 長 山 内 亮 君	事 務 局 次 長 逸 見 和 行 君
事 務 局 次 長 高 野 毅 君	指 導 主 事 濱 中 浩 君
事 務 局 金 井 稔 君	事 務 局 三 村 恵 美 君
次 長 補 佐	次 長 補 佐
事 務 局 田 中 智絵子 君	事 務 局 倉 科 健 一 君
次 長 補 佐	次 長 補 佐

事務局 出羽沢 千 曲 君
次長補佐
主 事 深 澤 亮 平 君
朝 日 村 上 條 靖 尚 君
教育委員会

事務局 小 西 え み 君
次長補佐
山 形 村 小 林 好 子 君
教育委員会
中 学 校 長 藤 田 克 彦 君

開 会

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、ただいまから令和元年度松本市・山形村・朝日村中学校組合第2回定例教育委員会を開催いたします。

教育長挨拶

- 教育長（赤羽郁夫君） 台風19号により東日本を中心に大雨特別警報という、過去に経験のない被害で私どもも大変緊張したわけですが、12日の夕方から長野市では堤防が決壊して広い範囲にわたって被害に遭う、それから、千曲川水系の市町村は大きな被害に遭うという、長野県にとっても初めての経験のようなことであります。早急な復旧と、それに対して私どもは何ができるかということを、今日も校長会とも連絡をとって、各学校でもできる範囲で何かできることを検討してほしいということをお話させていただいているところです。行政としてもできる範囲のことはしていきたいと思っています。この経験は、明日私たちに起こっても不思議ではなく、特にこの地域は地震の発生確率が高いと言われていますので、ぜひ肝に銘じながらと思います。きっと長期戦になると思いますので、またできる範囲のことでそれぞれ支援を続けていけたらと思っています。

会議録署名委員の指名

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、本日の会議録署名委員は、根橋委員と清澤委員にお願いいたします。

議事進行

- 教育長（赤羽郁夫君） 本日は報告が7件ございます。
それでは、早速議事に入ります。

報告第1号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会11月 定例会の日程について

- 教育長（赤羽郁夫君） 初めに、報告第1号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合

議会 11 月定例会の日程について報告を願います。

- 事務局次長補佐（金井 稔君） 事務局次長補佐の金井です。本来であれば、事務局次長小林がご説明申し上げるところですが、諸事情によりお休みをいただいておりますので、私から説明させていただきます。

着座にて失礼いたします。

それでは、報告第 1 号でございますが、資料をおめくりいただきまして、1 ページをご覧くださいと思います。

報告第 1 号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会11月定例会の日程についてでございます。

1、趣旨ですが、令和元年 11 月 6 日開催予定の令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会 11 月定例会の日程について報告をするものということでございます。

2、日程ですが、資料をおめくりいただきまして、3 ページをご覧ください。

11 月定例会議会日程でございます。

日時は、令和元年 11 月 6 日水曜日、午後 3 時 30 分開議となっております。

第 1、会議録署名議員の指名、第 2、会期の決定、第 3、議案第 1 号 平成 30 年度松本市・山形村・朝日村中学校組合一般会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

おめくりいただきまして 4 ページでございますが、日程詳細となっております。

1 番、管理者会が午後 2 時 30 分から開会が予定されております。

2 番、定例会ですが、午後 3 時 30 分、議員協議会、本会議前の議員協議会となります。本会議、休憩を挟みまして、議員協議会といたしまして、第 1 号から 5 号まで報告事項がございます。

第 1 号、平成 31 年度全国学力・学習状況調査の実施結果について、第 2 号、NRT（教研式全国標準学力検査）の実施結果について、第 3 号、不登校の現状と対応について、第 4 号、平成 30 年度鉢盛中学校給食費会計について、第 5 号、各種大会結果についてとなっております。

報告第 1 号については以上です。

- 教育長（赤羽郁夫君） ありがとうございます。

それでは、報告第 1 号について、質疑・ご意見のある方のご発言をお願いします。

（発言する者なし）

- 教育長（赤羽郁夫君） 11 月 6 日水曜日、鉢盛中学校において、管理者会に続いて定例会が 3 時 30 分から行われるということでございます。内容は以下のとおりであります。

特に発言がないようですので、集約したいと思います。報告第 1 号については承認ということよろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、承認と集約いたします。

報告第2号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会

11月定例会の提出予定議案について

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、続いて、報告第2号 令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会11月定例会の提出予定議案について報告をお願いいたします。
- 事務局次長補佐（金井 稔君） それでは、資料5ページになります。

報告第2号でございますが、令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会11月定例会提出予定議案についてでございます。

1、趣旨ですが、令和元年11月6日開催予定の令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合議会11月定例会への提出予定議案について報告をするものでございます。

2、提出予定議案ですけれども、議案第1号 平成30年度松本市・山形村・朝日村中学校組合一般会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

内容につきましては、逸見次長からご説明を申し上げますのでお願いいたします。

- 事務局次長（逸見和行君） 次長の逸見和行でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、座って説明させていただきます。

平成30年度松本市・山形村・朝日村中学校組合一般会計歳入歳出決算の認定につきまして、一般会計歳入歳出決算書に基づきまして、金額は千円以下を四捨五入し、万円単位を基本として説明いたします。

それでは、資料の10ページ、11ページをお開きください。

ここでは、歳入の総括をお示ししてあります。

11ページの左端、収入済額の列、一番下の歳入合計は1億8,616万円で、前年度比4,592万円、32.7%の増となっております。

次に、12、13ページをお開きください。

こちらは歳出の総括でございます。12ページの一番右、支出済額の列の一番下の欄、歳出合計は1億8,112万円で、前年度比4,599万円、34.0%の増となっております。

決算額は12ページの下の方にお示しのとおり、歳入総額1億8,616万円、歳出総額1億8,112万円で、歳入から歳出を差し引いた残額は505万円となっております。

14、15ページをお開きください。

歳入の事項別明細でございます。

右のページの左から2列目、収入済額と右端の備考欄を中心に主なものについてご説明いたします。

1款分担金及び負担金ですが、収入済額1億5,556万円で、前年度比2,093万円、15.5%の増となっております。それぞれの市村の分担金額は備考欄にお示しのとおりでございます。

次に、中段、3款国庫支出金は収入済額28万円で、前年度比9万円、49.7%の増となっております。これは特別支援教育就学奨励事業費補助金の対象者が8人から9人に増えたことによるものでございます。

次に、4款県支出金は収入済額9万円で、平成30年度から合唱部に新規で配置しております部活動指導員に係る補助金の皆増でございます。

次に、5款繰越金512万円は、平成29年度決算から繰り越されたものでございます。めくっていただきまして、16、17ページをお開きください。

ここからは歳出の事項別明細でございます。

右のページの左端、支出済額と右端の備考欄を中心に主なものをご説明いたします。

1款議会費、それから、2款総務費では、議会運営に係る経費や行政委員に係る経費などが支出されております。

次に、3款教育費は、鉢盛中学校や事務局の管理運営に係る経費であり、支出済額は1億5,736万円で、前年度比6,015万円の増となっております。主な支出といたしまして、1項2目事務局費は支出済額2,000万円で、前年度比738万円の増となっております。その内訳として、備考欄の白丸、人件費は、支出済額1,677万円で、前年度比522万円の増となっています。これは主にコミュニティスクール統括コーディネーター、学校司書の新規配置に伴う増でございます。

18、19ページをご覧ください。

備考欄の最初の白丸、一般管理費は支出済額263万円で、前年度比160万円の増となっております。これは主に教職員住宅の管理費用として破損していました擁壁を改修し、また、ブロック塀を撤去した際の営繕工事費でございます。

中段、2項中学校費は支出済額1億3,732万円で、前年度比5,277万円の増となっております。

1目学校管理費は支出済額9,033万円で、前年度比630万円の増となっております。備考欄最初の白丸、人件費は、正規職員の栄養士1人、嘱託職員、学校医に係る人件費が2,749万円で、前年度比19万円の増となっております。

次の白丸、授業用公用備品充実整備費は支出済額528万円で、前年度比125万円の増となっております。これは主に給食用食缶や吹奏楽器の購入によるものでございます。

20、21ページをご覧ください。

備考欄3つ目の白丸、中学校営繕費は支出済額805万円で、前年度比187万円の増となっております。

3つ目の黒ボツ、営繕工事費の主な内容は、校庭沿いの土留・側溝改修工事、剣道場暗幕取替工事などでございます。

次に、3目学校施設費は支出済額4,682万円で、前年度比4,644万円の増となっております。これは前年度、特段大きな事業がなかったことに加え、決算年度におきまして

は保健所からの指摘事項に基づきまして給食棟改修事業を実施したことによる大幅な増でございます。

22、23ページをご覧ください。

4款公債費は支出済額2,340万円で、前年度比1,416万円の減でございます。なお、決算年度末の借入額残高は8,406万円となっております。

次に、24ページをご覧ください。

こちらは実質収支に関する調書でございます。

歳入総額1億8,616万円、歳出総額1億8,112万円で、歳入から歳出を差し引いた差引額は505万円となり、翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額は同額の505万円の黒字決算となったものでございます。

26、27ページをお願いいたします。

こちらは財産に関する調書でございます。

土地につきましては、合計4万9,508平方メートルで、前年度からの増減はありませんでした。

建物の面積につきましては、給食棟改修事業で増設した風除室を非木造の建物に計上し、延べ面積は4平方メートル増の9,775平方メートルとなっております。

28ページをご覧ください。

こちらは1件100万円以上の物品についてお示ししてあります。決算年度中の増減額の内容でございますが、給食棟改修事業に伴う給食機器の更新等によるものでございまして、食器洗浄機1台、食器消毒保管庫2台、パススルー冷蔵庫1台、給食室温室ボイラー1式の増、食器食缶洗浄機1台の減となっております。

29ページには、本年8月26日の決算審査におきまして監査委員から提出された意見書を添付してございます。

以上、平成30年度歳入歳出決算の説明とさせていただきます。

○教育長（赤羽郁夫君） ありがとうございます。

報告第2号について報告をいただきました。ご質問、ご意見等ございましたら、どこからでも結構ですのでお出してください。

30年度は給食棟の改修という大事業があったということで、大幅な予算増ということになりました。改修中の給食は、松本の西部学校給食センターから運んでということで対応したということでございます。

（発言する者なし）

○教育長（赤羽郁夫君） 発言がないようですので、集約したいと思います。本件については承認としたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○教育長（赤羽郁夫君） それでは、承認といたします。

報告第3号 平成31年度全国学力・学習状況調査結果について

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、続きまして報告第3号 平成31年度全国学力・学習状況調査の実施結果について報告をお願いします。
- 中学校長（藤田克彦君） それでは、着座にて失礼いたします。
31ページをご覧ください。

報告第3号です。本年4月に実施しました平成31年度全国学力・学習状況調査における鉢盛中学校の結果について報告するものでございます。

調査の概要は、（1）に、教科に関する調査、国語、数学、英語並びに生徒質問紙、（2）の調査日は、平成31年4月18日木曜日でありました。

昨年度までと変更されている点がありますので、ここで若干触れさせていただきます。

昨年度までは、国語、数学において、Aのいわゆる知識に関すること、それから、B問題として、主に活用に関することというふうな、国語、数学がA、Bの2つの区分になっておりましたが、今年度からは平成29年3月に公示されました、育成すべき資質・能力の三つの柱——知識・技能、思考力・判断力・表現力、そして学びに向かう力、人間性という柱を示して、これらが相互に関連し合って育成されるものという考えのもとに、その区分を見直して一体的な調査問題となったということが前年度からの変更点であります。あわせて英語が初めて実施されました。英語については、ペーパーによるものと、リスニングと、それから、話して聞き込むという実技を伴う調査が加わってまいりました。

その結果、調査結果の概要については33ページから36ページにまとめてございます。細かな数値については触れることはいたしません、そこにまとめてある国語、数学については、全国、県平均を上回る調査結果でございました。英語については、ほぼ同等の調査結果でありました。それぞれの項目、問題に関わる点については、紙面に触れてありますので、ご覧いただければと思います。

35ページの上段を読ませていただきます。

近年、学力検査の問題は文字数が多く、説明が長い問題が多く見られます。日常の授業から生活につながるのある説明の長い問題を多く扱い、読み取ってから問題を解くことに適応できるように指導していきますということです。ここでは数学について触れてございますが、問題文を適切に読み込む、いわゆる言語力を高めていくということがどの教科でも大事な要素と捉えております。

36ページをご覧ください。

この中段以降は生徒質問紙について、本校の特徴あるものを抜き出してあります。例年数値の高い、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、また、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問には肯定的な回答が例年以上に高い結果が出ました。本校で実施している4人の学び合いの学習形態による積み重ねがここにもつ

ながってきているかなと思います。あわせて「１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思いますか」という質問項目についての肯定回答率も高いということにも、そんな点もつながっているかなと分析しております。

そして、例年は肯定的な部分のみの取り上げでしたが、本年度は課題と見られるところもお伝えしていこうと思います。１点、朝食を毎日きちんと食べましょうということですが、「毎日食べていますか」という質問に対して、「あまり食べていない」「全く食べていない」と答えた生徒の割合が平均を上回る状況ということもあり、朝食の大切さを保護者とともに共有していきたいと思っております。

あと「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問について、「している」と言い切れる生徒の割合は若干少なく、また、時間数を見ても、「１時間から２時間程度」という割合が約５０％、時間が多くなる割合は若干少なめということが見てとれました。

質問紙については、３年生の保護者に配布するもの以外に、本校の状況を学校だより等でも発信して、２年生の保護者とも共有しながら積み上げていきたいと考えております。

以上でございます。

○教育長（赤羽郁夫君） ありがとうございます。

例年、全国学力・学習状況調査の結果ということで、平成１９年度以来、第１回の実施以来、松本市ではこのように文章表現で公表させていただいて、各校も公表することとしています。各村でも小学校の結果については何らかの方法で公表していますか。

○教育長職務代理（百瀬司郎君） 文章ですね。

○教育長（赤羽郁夫君） 山形は。

○教育委員（根橋範男君） 文章と広報紙で。

○教育長（赤羽郁夫君） 広報紙では、概要ということですね。

○教育委員（根橋範男君） そうです。

○教育長（赤羽郁夫君） 長野市ですとか上田市は数値を公表していると思います。

まず、質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

上條委員。

○教育委員（上條利春君） ４人グループでやっているの、すごく成果が上がっているということでうれしく思います。それから、自分が肯定的に認められるというのが９０％を超えるのはすごいなと思います。ただ、あまり朝食を食べないということですが、これは原因としては何がありますか。理由のようなものは何か。

○中学校長（藤田克彦君） まだ理由までは分析できておりませんが、本人の朝の時間のなさ、また、家庭的な背景等も考えられるところであろうとは思っております。

○教育長（赤羽郁夫君） 小布施町でしたか、一時、学校で朝食を提供しよう、朝食を食べて

こない子たちにはパンか何かを提供しようという動きがあって、結局はやらなかったようですけれども、現実的にはそういう子たちが結構いるという現実があるようです。

- 教育委員（上條利春君） これは松本市全体としてはどんな感じですか。
- 教育長（赤羽郁夫君） 松本市はどうでしたか、高野次長。
- 事務局次長（高野 毅君） 松本市につきましては、現在、相関だけで出しておりますが、それによりますと、「朝食を毎日食べている」という子供のほうが比較的には多い傾向があります。
- 教育委員（上條利春君） ここに書いてあるとおり、朝食というのは1日のスタートで一番大事だと思うので、家庭でも考慮してもらいたいと思います。
- 教育長（赤羽郁夫君） 極端な話をすれば、子供たちが登校するときに親は寝ているということもあるということですね、現実的に言えば。
- 教育長職務代理（百瀬司郎君） 朝の生活ですね。
- 中学校長（藤田克彦君） いわゆる夜更かしをする。朝起きて食欲がない、そのまま出てくるという子も中にはあります。
- 教育長（赤羽郁夫君） 家庭全体、世の中全体が夜型になっているので、結局朝が非常に厳しいというような状況は聞いております。
- 教育委員（上條利春君） もう一つ、家庭学習のほうで、計画を立ててやっているのが低いという結果なのですが、これはやはりスマホとかゲームとか、SNSの関係などもあるのでしょうか。
- 中学校長（藤田克彦君） そちらというよりは、まだ学習が主体的になっていないということがあると思います。真面目で一生懸命やる子供たちですけれども、自分の必要なものをあえて加えてやるとかというよりは、まだ与えられているものとか、そういうところのもう一歩、主体というところまで私たちが育てられてない。今度は家庭学習のあり方の指導支援を大事にしたいと思っています。
- 教育長（赤羽郁夫君） これはきっとそれぞれの市村の小学校の学習習慣とも連動してくると思います。今宿題をどういうふうに扱うかということも言われていまして、一人一人にとって同じ量を宿題として出すことが本当にいいことなのかという論議も一方にあって、どの子にも定量だけ出して、それでノルマ的にやってくるということを6年間ずっとやっていると、結局やらされたことをこなすだけの宿題になって、そうすると計画的に自分の学びたいところや学ぶべきところを探し出して学習していくというような経験値が育ってこないということが言われています。これは長い間に培われてきた子供たちの学習習慣でして、一方では、県も家庭学習を大事にしようと、マニュアルを作ったり、それぞれのところで家庭学習に力を入れていたりするけれども、子供たちの主体的な学習が結びついているかどうかというあたりは、また各市村のところでも小学校のあり方等も検討していかなくはない大きな課題かなと思います。これは長野県全体に言えることではないかなと。まさに自ら学ぶ力を

どう身に着けるかというところに集約されてくるのかなと思います。

百瀬委員。

- 教育長職務代理（百瀬司郎君） 今赤羽教育長の言われたことは本当に長野県の大きな課題かなと思っているところです。学校の先生は主体的に子供に学ばせていきたいと願っているのだけれども、宿題になると、毎日同じように与えられていくという繰り返しを、確かに何年間も繰り返されていくと、宿題というのは自ら学ぶものではないということが定着してしまいます。この悪循環の繰り返しというのが長野県の教育の姿です。そういうことから考えると、自分から計画してというのは、まさに自分から主体的に学習を自ら取り込んでいくとか、あるいは開拓していくとか、あるいは苦手なところを切り拓いていくというような自ら取り組む家庭学習のあり方というのは、どこの学校も求めているながら、なかなか踏み出せないのが現状です。特に中学校では朝来てノートを出してというやり方をやっているの、本当はこういうところを変えていかないといけないのだろう。しかし、学校の管理の中ではなかなかそれを脱却できないというのが現状かなと思います。

そういう中で、鉢盛中では、宿題のあり方については、先生たちの中で議論はあるのか。あるいは疑問を感じておられる先生方はいらっしゃるか。その辺はいかがでしょうか。

- 中学校長（藤田克彦君） やはり話題になっています。具体的に定着を図るために具体的な指示を出すときと、どこをどんなふうにもやってもいいというふうにフリーにやっていると教科もあります。毎日宿題にしない教科もあり、少しずつ今のやり方を変えるなどしつつ、話題になってきているところであります。
- 教育委員（上條利春君） 私も小学生の姿を見ているんだけど、一時は自主学習とかと言って、自分で分野を決めてやっているということをやっていたんですが、だんだん今はなくなっただけです。というのは、多分、自分で計画を立ててというのが、本当に自分が追求しているというような喜びにまではつながってないのだと思います。結局は、宿題さえやればいいというような形で、与えられた学習をやってそれで終わりという段階で、自分の学習の意欲とつながっているのかというあたりが、中学生は小学校の段階でもっと自分なりの追求の目標があればいいなということを思います。ただ、中学校へ行くとたくさんの提出物があるし、それをこなすだけでも大変だということはわかっているので難しい課題だとは思いますが。
- 教育長（赤羽郁夫君） 結局、今の子供たちは非常に真面目で、大人の期待に応えようとはするんだけど、自分でやりたいことは踏み出さないというか、これはなかなか難しい問題かなというふうに思って、その部分を学校の中の授業とか日常の中でカバーしていくという、より追求的な授業が必要になっていくと思います。

来週23日には、佐藤学先生がお見えになって学校公開の授業があります。午後でしたね。

- 中学校長（藤田克彦君） 午前中も2時間、全教室公開して。
- 教育長（赤羽郁夫君） 午後の授業は見に行きたいなと思っているんですけども、ぜひま

た委員さん方もご都合がございましたら参加をいただければ、子供たちの学びの姿や佐藤先生の話なんかも聞くことができると思います。

- 中学校長（藤田克彦君） いま台風の関係で、学習院大学は前日、即位礼も授業日ということで、授業をされてからお見えになるということです。
- 教育長職務代理（百瀬司郎君） 23日は楽しみにしております。子供の学びについてまた教えてもらいたいなと思います。

国語、数学、英語についてまとめられている中で、理解をしているというのはほぼ全国平均並みということですが、例えば国語の読むことについては、根拠を明確にして自分の考えを持つことについてはやや課題がある。あるいは数学のほうでは、図形に関する問題について、前提条件を考え説明する問題にやや課題がある。英語については例えば正確に読み取ることとか書くことに課題がある。要するに理解力はあるけれども、それを今度は自分の考えを導き出す、あるいは表現をする、書く、話す、そういった部分では若干の課題があるというふうになっています。これは多分鉢盛中だけではなくて、ほとんどの中学生の抱えていることだと思います。こういう子供たちの現状を捉えながら、常に説明の長い文章を使って読み取ってから問題を解くということもありますけれども、表現ということを日々の授業の中で培うとか、あるいは自分の考えを導き出すとか、そういったところの学習計画はあるのでしょうか。

- 中学校長（藤田克彦君） まず、1点は、4人グループの活動をさらに充実させるということかなと思います。その中でお互いの関わりを十分持つけれども、その中できちんと自分の考えをわかるように伝えるというようなことをより意識をさせたい。

もう一つは、表現というところでは、授業の終わりに100字程度で今日の授業の振り返りを言語で書きまとめるとか、そういうことをいろいろな教科で実際やっていこうと確認し合って、まとめていく力をつけたいなと考えております。

- 教育長職務代理（百瀬司郎君） 今みたいに200字以内とか、凝縮された文字数で表現するのは非常に重要なテーマかなと思います。23日楽しみに、勉強させていただきます。
- 教育長（赤羽郁夫君） 表現をパターン化しないとか、見出しを作るだとか、中学生はそういう端的にまとめるような力も大事なかなと思います。

新井紀子さんが「AIに負けない子どもを育てる」という本を出したではないですか。そこでもやはり問題になっているのは読む力ということで、これからまさに長い文章とか教科書をまず読めることを表現し活かすとかということは非常に重要になるということです。また、生活全体を豊かにしていくということこそが表現力を豊かにしていくことだろうということで、生活が貧しいと表現力もやはり貧しくなるのではないかと私は思っているの、家族との触れ合いや地域としての触れ合い、いろいろな体験を積むとかという、やはり生活全体を豊かなものにしていくという取り組みは必要だろうなと思っています。そのために、本当はコミュニティスクールみたいなものはあるのだろうなと私は思いますが、そんな面でま

た鉢盛中学校は条件的には恵まれている部分もたくさんあるので、また来週の公開研究会も大事な一つの機会として活かしていただけたらなというふうに思います。

それでは、報告第3号については承認いただくということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

報告第4号 N R T (教研式全国標準学力検査)の実施結果について

○教育長(赤羽郁夫君) それでは、続いて報告第4号 N R T (教研式全国標準学力検査)の実施結果について、校長先生、報告をお願いします。

○中学校長(藤田克彦君) では、37ページをお願いいたします。

4月、3年生が全国学力・学習状況調査を実施した日に、N R T (教研式全国標準学力検査)を行いました。その結果について報告するものでございます。

検査科目については、1年生は国語、数学、2年生は国語、数学、英語の3科目になります。それぞれ1年生、2年生の保護者向けへの通知文は39ページから42ページまでとなっております。

このところで、いわゆる3年生の結果等も踏まえながらつなげていくところでは、39ページ、国語の読むことの学習状況の四角、細かな文句や接続詞等に注意しながら正確に理解することに重点を置いて進めます。また、数学、40ページでは、意味を理解していないということで、なぜそうなのかというような理由を考える活動を大切にしながら授業での指導を進めていきたいという方向を記載しております。

2年生についても同様な傾向を大事に進めていきたいと思っておりますし、英語では、3年生の学力調査にありましたが、より多く英語を聞く機会を設けて、正しく聞き取る力の計画を図っていくということで、英語教師またはA L Tとのやりとりを通しながら、その機会を設けていきたいと思っております。

以上でございます。

○教育長(赤羽郁夫君) N R Tの結果と今後の指導について。

今日もたまたま午前中、市内の校長先生と面接をやったのですが、その中である学校のある子供について話をしているときに、いわゆる学習障害で、L Dの可能性のある子は結構いるのではないかと思います。特に読む障害とか、漢字が苦手という子の中にはL Dの可能性のある子もいます。中学3年生ですけれども、自分で字が書けないのに、パソコンのキーは打てるんですよ。前期選抜を受けるのに志願理由書が自筆で書けないので、枠の中にパソコンで打ったのを縮小して、それでそこへ張りつけるような形でもいいかということで了解を得て、僕は面接の練習をしたんです。「僕は受かりっこないからもういいよ」とかとその子は言ったんだけど、結局受かったんです。お母さんと面接をして、「この子はいいんです。もう受験してくれるということだけでも私はうれしくて、うれしくて十分です。もう受かりっこありませんから。」と言っていたんですけれども、受かったんです。結局高

校でもそのことを伝えて、うちの子は字がうまく書けないけれども、タブレットとかを使えば、普通の人と同じように学習できるからということで、事前にそういうことを打ち合わせて入学して、今高校生になっている子がいるんです。

まさに国語には、そういう意味の合理的配慮が必要という子が潜在的にいないかということ言われているけれども、なかなか努力が足りないとか、私も担任しているときは、「お母さん、この子は漢字が課題ですから、ぜひ家庭の協力をお願いします」なんて言ってきたことは本当に正しかったのかなと振り返っています。きちっとした配慮をして、その子に合った力をつけてやるということも必要かなと思って、特に国語が苦手、読み書きが苦手という子はそういう視点を見ることも大事なのかなと、ここのところずっとそんなことを考えていますので、またそんな視点でも見ていただけたらと思います。

それでは、報告第4号については承認いただくということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

報告第5号 不登校の現状と対応について

○教育長(赤羽郁夫君) 続いて、報告第5号 不登校の現状と対応について、引き続き校長先生、お願いします。

○中学校長(藤田克彦君) 本校の不登校の現状と対応について報告するものでございます。43ページをお願いいたします。

2の(1)にお示ししてあるのは、経年の変化でございます。

3、今年度の現状とその対応についてということについて少しご説明いたします。

(1)不登校生徒数は1年生3名、2年生6名、3年生1名、計10名でございます。9月30日現在の不登校による欠席日数30日以上生徒であります。これは昨年度同期との比較では全体で4名増となっております。実質昨年と比べて1年生、3年生の3名、1名は同数でございますので、2年生が実質的に4名増えているということになります。

3年生1名ですが、この生徒は昨年まで200日欠席の生徒ですが、今年度から顔を見せるようになりました。その背景は、進学がございます。7月、1学期の最後の終業式に顔を出すという約束どおり顔を出しまして、それから、2学期に入ってから毎週金曜日に母親と一緒に夜間登校をこれまで休むことなく継続をして、彼の願いはいろいろな人と関わりたいということで、今いろいろな職員が関わったり、身体検査をしたりとやっています。

2年生は6名おりますが、このうち5名は早い段階で既に30日以上欠席した生徒です。現在のところ、そのうち2名は相談室登校を経て、ほぼ学級復帰しています。放課後登校を継続している生徒が1名、また、医療機関を受診し始めた生徒1名がおります。1名は現在ややこもりがちな生徒がおります。さらにこのうち2名は部活動をしに登校している子供もいます。極端な話、放課後登校して、部活をやって帰っていく生徒もいますが、先日の新人大会にもその子も参加することができました。

1年生3名については、それぞれあるわけですが、家庭訪問でのつながりを切らないように、それから、両村との連携を図りながら支援を進めているところでございます。

44ページ、相談室登校の生徒ですが、現在は2年生2名、3年生4名の6名ですが、そのうち2年生の2名は相談室には朝顔を出しますが、そこから学級の生活に入っていくことが今できております。また、3年生も4名おりますが、2名は相談室を中心にしております。ほかの2名は授業への参加ということも出てまいりました。このうち1名は、昨年まで完全不登校だった子ですが、この4月に入って自分の意思で動き出した結果、本年度欠席ということで、相談室を足がかりにしっかり歩み出した生徒がいて、自分の進路を目指しています。

3番、中間教室ですが、夏休み前から保護者、本人で自ら望み、あかり教室に連絡を取って見学に行き、試験通室を始めている生徒が2年生に1名出てまいりました。

最後ですが、9月末に文化祭が2日間行われたんですが、不登校10名、並びに相談室登校6名、16名のうち13名は何らかの形で文化祭に関わることができました。またいろいろな機会を大事にしながら、ひとつそういう形で続けていきたいと思っております。

以上でございます。

- 教育長（赤羽郁夫君） 報告第5号 不登校の現状と対応についてということですが、ご質問、ご意見等ございますか。
- 教育委員（上條利春君） 先生方の努力で減ったと思います。去年、自立支援教員と一緒に家へ行って話す機会ということもありました。連携をとってやっていて効果が上がっているのではないかと思います。小学校のほうは今のところゼロだという話ですが、うまく中学校にやってもらいたいと思います。
- 教育長（赤羽郁夫君） 10年少し前の鉢盛中はざっくり1クラス不登校という状況でした。

これも前にお話をしたかもしれないですが、3月の新聞に先生たちの異動の情報が出るではないですか。松本市内の高校生ですが、中学生のときはほとんど不登校で学校へ行かなかった。それでも高校生になった。今年3月にその新聞を見て、自分の担任だった先生が異動ということがわかって、「俺、先生にちょっと挨拶に行ってくる」と言って中学校へ行ったという話をお母さんに聞いたんですよ。ほとんど関わっていない、学校へ行かなかったはずだけでも、やはり自分の担任の先生は、自分のことを気にかけてくれたということその子は自覚していた。だから学校へ挨拶に行くと言ったというから、お母さんがびっくりしたと言って私に話してくれたんです。

子供と先生の関係って、すぐに成果は出ないんだけど、ずっと気にかけてくれた人のことはちゃんと子供たちはわかっていて、自分がなかなかうまくいかなかったんだけど、いま思えば、それがその子の成長の姿かなと思います。そういうことも信じて、不登校というのはすぐに学校に来たかというのではなくて、やはり関わり続けるということ、

長い冬みたいな営みだけれども、信じてやっていくということが僕は教育の世界なのかなということを思って、いつか何かいいことがあるのではないかなということを思いながらやっていくということが学校の姿勢なのかなと思いますので、ぜひまた先生方と共通理解しながら、すぐに数字で今年は減ったとか増えたとかということではなくて、その子に関心を向け続けてやるということが、結果的にその子の成長に絶対寄与しているという確信を持ってやるということはすごく大事なかなと思います。

それでは、報告第4号については承認いただくということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

報告第6号 平成30年度鉢盛中学校給食会計について

- 教育長(赤羽郁夫君) それでは、報告第6号 平成30年度鉢盛中学校給食会計についてをお願いします。
- 中学校長(藤田克彦君) それでは、45ページをお願いいたします。

平成30年度鉢盛中学校給食会計について報告するものでございます。

給食についてですが、1日の作る量が約511食、給食日数195日で、延べ数についてはそこにお示ししてあるとおりです。

3、給食費ですが、1食当たりは330円、月額、年額はこのようになっておりますが、日数については市内中学校よりも5日多く、1食当たりの食費は昨年4月1日より市内と同額になりました。

4、給食費収入支出については46ページをご覧ください。

収入総額が3,248万円、それから、支出総額が3,238万円、差引残高が10万円ということです。収入済額、前年度繰越金を見ると、前年度の約6万円より本年度のほうが多くなっている背景について少し触れさせていただきます。

副食費ですけれども、不用額が60万となっております。昨年度はここが11万円、その背景ですが、一つは、昨年度、野菜の高騰が比較的少なかったということです。あわせて先ほども話題になりましたが、8月から10月いっぱいまでの約3カ月弱、給食棟改修事業のために、給食を松本市西部学校給食センターの配食で対応していたことによるものです。特に野菜の高騰は夏季の支出に大きく関わり、その実質食材支出が少なかったということも大きな要因であろうというのが担当者のご意見でございます。そんなことで副食費の不用額が多くなった分、繰り越しも多くなっておりますが、この予算現額について余裕を持った金額を上げていただいていた、大変ありがたいということも担当が申ししておりました。

また、平成29年度との金額の違いは、1食20円増額している分、全体の額も変わってきているというところがありますので、ご確認いただければと思います。

この会計報告等については平成31年4月26日のPTA総会にて保護者には報告済みでございます。

以上です。

- 教育長（赤羽郁夫君） 報告第6号について、何かご質問、ご意見等ございますか。
- 教育委員（上條利春君） 給食費を出していない家庭はないですか。
- 中学校長（藤田克彦君） 前段階での滞納はあります。でも、年度末では、おかげさまでご理解、ご協力いただいて、このところ毎年ゼロで年度会計を締めしております。
- 教育委員（上條利春君） 相当苦勞はされているわけですか。
- 中学校長（藤田克彦君） 幾らかの苦勞はあります。
- 教育長（赤羽郁夫君） それぞれご苦勞がありそうなニュアンスが伝わってきます。

予算高がこれくらいあれば少し余裕があるということですね。松本市も当初お金がないので、2,000万円くらい一般会計から借りて、また途中で返すみたいなの、当座の支払いがお金がないのでということをやっておりますけれども、少し余裕があると、楽な会計ができるかなと思います。

それでは、報告第6号についてはご承認いただくということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

報告第7号 各種大会結果について

- 教育長（赤羽郁夫君） 続いて、報告第7号 各種大会結果について、続けてお願いします。
- 中学校長（藤田克彦君） それでは、報告第7号でございます。47ページからになります。

令和元年6月から8月に開催された部活動等の各種大会結果を報告するものであります。

2番から、その期間に行われたものを大会種別に表しているわけですが、それぞれここに表れていない生徒、または部の結果もあるわけで、みんながそれぞれ精一杯取り組んだというのがベースにございます。その上で、その結果や入賞者について報告をさせていただいております。

2番、中信陸上の結果であります。ここに示してございます14種目で県大会に出場することができました。

3番、40から48ページにかけて、松本市中学校体育大会についての結果をお示ししてあります。男子バスケットボール以外の全種目で次のステージに挑戦することができました。

48から49ページにかけては、中信体育大会の結果です。それぞれについては、表にお示ししてありますが、県大会には5種目で、1チームに関しては6名の出場ということになりました。

県大会においては、5番、陸上、それから、6番、ほかの種目の結果であります。3名が3種目において北信越大会に出場しました。

49ページの7番に北信越大会の結果を示してありますが、新体操、増澤さなさんが総合3位ということで3名枠の中に入りまして、全国大会に出場することができました。

50ページ、8番に全国大会の結果があります。日付に修正があります。23日の金曜日

ですけれども、場所はこのとおりです。大会には、全国４８名の参加がありまして、そのうちの総合２０位ということで頑張って健闘したなと思います。私の調べたところでは本校では平成２５年度以来６年ぶりの全国大会出場です。

９番から１２番については、夏休み中、前後に行われました吹奏楽コンクール並びに表の２つのコンクールの結果をお示ししてございます。

以上であります。

- 教育長（赤羽郁夫君） 修正は、２３日の金曜日ですね。

報告第７号について報告いただきました。

よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- 教育長（赤羽郁夫君） では、報告第７号については承認することといたします。

その他

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、以上で予定されていた案件は終了しました。

事務局から何かございますでしょうか。

（発言する者なし）

閉 会

- 教育長（赤羽郁夫君） それでは、以上で令和元年松本市・山形村・朝日村中学校組合第２回定例教育委員会を終了いたします。

会議録調整職員 松本市・山形村・朝日村中学校組合事務局 主事 深澤 亮平

令和元年 10月16日

教 育 長 赤 羽 郁 夫

署名委員 根 橋 範 男

署名委員 清 澤 あ ゆ み